

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4792181号
(P4792181)

(45) 発行日 平成23年10月12日 (2011.10.12)

(24) 登録日 平成23年7月29日 (2011.7.29)

(51) Int. Cl. F 1
B 6 5 D 21/08 (2006.01) B 6 5 D 21/08
B 6 5 D 43/02 (2006.01) B 6 5 D 43/02 B

請求項の数 3 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2001-253454 (P2001-253454)	(73) 特許権者	391049448
(22) 出願日	平成13年8月23日 (2001.8.23)		天馬株式会社
(65) 公開番号	特開2003-63534 (P2003-63534A)		東京都北区赤羽1丁目6番6号
(43) 公開日	平成15年3月5日 (2003.3.5)	(74) 代理人	100075948
審査請求日	平成20年4月24日 (2008.4.24)		弁理士 日比谷 征彦
		(72) 発明者	勝俣 貞治
			東京都北区赤羽1丁目6番6号 天馬株式会社内
		審査官	戸田 耕太郎
		(56) 参考文献	実開平06-010136 (JP, U)
			特開2001-114317 (JP, A)
)
			特開平10-175636 (JP, A)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 物品収納箱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底板と側壁と該側壁の上端縁から側方に突出するフランジを備え物品を収納する合成樹脂製の箱体と、天板と該天板の周縁に設けた外側板と該外側板の内側に設けた当接部を備え前記箱体に被せる合成樹脂製の蓋体とから成る物品収納箱において、

前記箱体のフランジには高さ位置が異なる上位段部と下位段部とを有する複数の支持部を設け、

前記蓋体の外側板は前記箱体のフランジの外側に嵌合すると共に前記箱体の周辺部を覆い、

前記蓋体の当接部は、前記箱体の支持部と同数とし、前記箱体の側壁の内面に接する面部と、前記支持部の上位段部又は下位段部に択一的に上方から当接する突起部とを有し、

前記箱体の側壁及びフランジは、前記蓋体の外側板と当接部の面部との間に接して位置し、

前記箱体に前記蓋体を第1の方向に向けて被せた際に、前記複数の当接部の突起部は前記複数の支持部の上位段部にそれぞれ当接し、

前記箱体に前記蓋体を前記第1の方向とは180度異なる第2の方向に向けて被せた際に、前記複数の当接部の突起部は前記複数の支持部の下位段部にそれぞれ当接するようにしたことを特徴とする物品収納箱。

【請求項 2】

前記箱体と前記蓋体の平面形状は矩形状とした請求項1に記載の物品収納箱。

10

20

【請求項 3】

前記蓋体の異なる高さ位置で、前記箱体、蓋体同士を連結する係止突起を前記箱体のフランジと前記蓋体の外側板にそれぞれ設けた請求項 1 又は 2 に記載の物品収納箱。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、衣類等の物品を収納する箱体と、この箱体に被せる蓋体とから成る物品収納箱に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

この種の物品収納箱の形状や材質は多種多様となっているが、平面長方形で合成樹脂製となっている場合が多い。そして、仕分けの容易さや搬送の容易さ等から、物品収納箱は薄型で積み重ねて使用できるようになっている。

【0003】

一方、マンション等の部屋の専有面積は狭い場合が多いので、その居住者の多くは部屋全体を有効に利用している。例えば、複数の物品収納箱を部屋の壁際に重ねて配置したり、ベッドの下に横に並べて配置したりしている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ベッドの下空間の高さは一様ではないので、物品収納箱の高さが僅かでも高過ぎた場合には、物品収納箱をベッドの下に配置できないことがある。これに対し、物品収納箱の高さがベッドの下に容易に配置し得る高さである場合には、その物品収納箱とベッドとの間の空間が無駄になることが多い。

【0005】

本発明の目的は、上述の課題を解決し、高さを変更可能とすることにより、狭い空間に有効に対応し得る物品収納箱を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するための本発明に係る物品収納箱は、底板と側壁と該側壁の上端縁から側方に突出するフランジを備え物品を収納する合成樹脂製の箱体と、天板と該天板の周縁に設けた外側板と該外側板の内側に設けた当接部を備え前記箱体に被せる合成樹脂製の蓋体とから成る物品収納箱において、前記箱体のフランジには高さ位置が異なる上位段部と下位段部とを有する複数の支持部を設け、前記蓋体の外側板は前記箱体のフランジの外側に嵌合すると共に前記箱体の周辺部を覆い、前記蓋体の当接部は、前記箱体の支持部と同数とし、前記箱体の側壁の内面に接する面部と、前記支持部の上位段部又は下位段部に択一的に上方から当接する突起部とを有し、前記箱体の側壁及びフランジは、前記蓋体の外側板と当接部の面部との間に接して位置し、前記箱体に前記蓋体を第 1 の方向に向けて被せた際に、前記複数の当接部の突起部は前記複数の支持部の上位段部にそれぞれ当接し、前記箱体に前記蓋体を前記第 1 の方向とは 180 度異なる第 2 の方向に向けて被せた際に、前記複数の当接部の突起部は前記複数の支持部の下位段部にそれぞれ当接するようにしたことを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】

本発明を図示の実施の形態に基づいて詳細に説明する。

図 1 は本発明の実施の形態の外観斜視図、図 2 は図 1 の中心線 A に沿って切断した拡大短縮断面図である。この実施の形態の物品収納箱は合成樹脂製とし、衣類等の物品を収納し得る平面長方形の箱体 1 と、この箱体 1 に被せ得る平面長方形の蓋体 2 とから構成している。そして、蓋体 2 の向きを反対にすることにより、蓋体 2 を箱体 1 に異なる高さ位置で被せ得るようにしている。なお、物品収納箱の短手方向を前後方向とし、長手方向を左右方向とした場合に、中心線 A は物品収納箱の前後の中心を結ぶ線とし、基線 B は物品収納

10

20

30

40

50

箱の左右の中心を結ぶ線としている。

【 0 0 0 8 】

箱体 1 は四角筒を形成する側壁 1 1 ~ 1 4 と、これらの側壁 1 1 ~ 1 4 の下端縁側を閉じる底板 1 5 と、側壁 1 1 ~ 1 4 の上端縁から外方にそれぞれ突出するフランジ 1 6 ~ 1 9 (フランジ 1 7 は図示せず) とを有している。

【 0 0 0 9 】

左右のフランジ 1 8、1 9 は、蓋体 2 を係止するための係止突起 2 0、2 1 を上下方向に間隔をおいてそれぞれ有している。係止突起 2 0、2 1 の前後方向の長さは任意とすることができるが、これらの係止突起 2 0、2 1 は箱体 1 の方向の基準として利用することができる。

10

【 0 0 1 0 】

例えば、左方のフランジ 1 8 の上方の係止突起 2 0 は、中心線 A を含むように位置する 1 つの短い突条とすることができる。また、右方のフランジ 1 9 の上方の係止突起 2 0 は、中心線 A を挟むように位置する 2 つの短い突条とすることができる。そして、左右のフランジ 1 8、1 9 の下方の係止突起 2 1 は、それぞれ 1 つの長い突条とすることができる。

【 0 0 1 1 】

ここで、蓋体 2 を異なる高さ位置で支持するために、箱体 1 の前後のフランジ 1 6、1 7 には例えば 3 つの支持部 2 2 をそれぞれ設け、左右のフランジ 1 8、1 9 には例えば 2 つの支持部 2 2 をそれぞれ設けている。これらの支持部 2 2 は中心線 A に関して対称に設けていると共に、基線 B に関して非対称に設けている。

20

【 0 0 1 2 】

図 3 は箱体 1 の例えば前方のフランジ 1 6 に設けた 1 つの支持部 2 2 の部分拡大斜視図である。この支持部 2 2 には蓋体 2 を高い位置に支持する上位段部 2 2 a と、蓋体 2 を低い位置に支持する下位段部 2 2 b とをそれぞれ設け、その他の支持部 2 2 も同様としている。

【 0 0 1 3 】

そして、前後のフランジ 1 6、1 7 に沿って位置する 3 つの支持部 2 2 のうち、中央の支持部 2 2 の上位段部 2 2 a の中心位置は基線 B から右方に距離 C だけ偏心させ、下位段部 2 2 b の中心位置は基線 B から左方に距離 C だけ偏心させている。また、両側の支持部 2 2 は中央の支持部 2 2 に対して等距離で設けている。

30

【 0 0 1 4 】

一方、蓋体 2 は箱体 1 のフランジ 1 6 ~ 1 9 の外側に嵌合する外側板 3 1 ~ 3 4 と、これらの外側板 3 1 ~ 3 4 の上端縁側を閉じる天板 3 5 とを有している。左右の外側板 3 3、3 4 の内面には、箱体 1 の係止突起 2 0、2 1 と係合可能な係止突起 3 6 をそれぞれ設けている。

【 0 0 1 5 】

そして、蓋体 2 の天板 3 5 には、蓋体 2 を箱体 1 に被せた際に、箱体 1 の全ての支持部 2 2 の上位段部 2 2 a 又は下位段部 2 2 b にそれぞれ当接する当接部 3 7 を設けている。これらの当接部 3 7 は中心線 A に関して対称に設けていると共に、基線 B に関して非対称に設けている。

40

【 0 0 1 6 】

図 4 にも示すように、当接部 3 7 は箱体 1 の上位段部 2 2 a 又は下位段部 2 2 b の上面に当接するコ字形状の突起部 3 7 a と、この突起部 3 7 a から側方に延在して箱体 1 の側壁 1 1 ~ 1 4 の内面に当接する面部 3 7 b、3 7 c とを有し、これらの面部 3 7 b、3 7 c は蓋体 2 のがたつきを防止するようになっている。

【 0 0 1 7 】

なお、蓋体 2 の外側板 3 1、3 2 に沿って位置する 3 つの当接部 3 7 のうち、中央の当接部 3 7 の突起部 3 7 a の中心位置は、基線 B から右方に上述と同様な距離 C だけ偏心させている。また、両側の当接部 3 7 は中央の当接部 3 7 に対して等距離で設けている。そして、右端の当接部 3 7 の面部 3 7 c は、右方の外側板 3 4 に沿って位置する当接部 3 7

50

との干渉を避けるために幅を狭くしている。

【 0 0 1 8 】

蓋体 2 を箱体 1 に高い位置で被せる際には、図 5 に示すように蓋体 2 を上述と同様な向きに保持して箱体 1 に被せる。これにより、蓋体 2 の全ての当接部 3 7 の突起部 3 7 a が箱体 1 の全ての支持部 2 2 の上位段部 2 2 a にそれぞれ当接すると共に、全ての当接部 3 7 の面部 3 7 b、3 7 c が箱体 1 の側壁 1 1 ~ 1 4 の内面にそれぞれ当接する。同時に、蓋体 2 の係止突起 3 6 が箱体 1 の上方の係止突起 2 0 と係合する。なお、蓋体 2 を取り外す際には、蓋体 2 の左右の外側板 3 3、3 4 を外方に撓ませながら、蓋体 2 を上方に持ち上げればよい。

【 0 0 1 9 】

10

蓋体 2 を箱体 1 に低い位置で被せる場合には、図 6 に示すように蓋体 2 を水平方向に 1 8 0 度回転して箱体 1 に被せる。これにより、蓋体 2 の前後の外側板 3 1、3 2 と左右の外側板 3 3、3 4 がそれぞれ逆方向に位置する。そして図 7 にも示すように、蓋体 2 の全ての当接部 3 7 の突起部 3 7 a が箱体 1 の全ての支持部 2 2 の下位段部 2 2 b にそれぞれ当接すると共に、全ての当接部 3 7 の面部 3 7 b、3 7 c が箱体 1 の側壁 1 1 ~ 1 4 の内面にそれぞれ当接する。同時に、蓋体 2 の係止突起 3 6 が箱体 1 の下方の係止突起 2 1 と係合する。

【 0 0 2 0 】

この実施の形態では、箱体 1 のフランジ 1 6 ~ 1 9 に支持部 2 2 を 1 0 個所に設けると共に、蓋体 2 の天板 3 5 に支持部 2 2 と同数の当接部 3 7 を設け、支持部 2 2 には高さ位置の異なる上位段部 2 2 a と下位段部 2 2 b を設け、箱体 1 に蓋体 2 を被せた際に、全ての当接部 3 7 が全ての支持部 2 2 のうちの同じ高さ位置の上位段部 2 2 a 又は下位段部 2 2 b にそれぞれ当接するようにしたので、蓋体 2 の高さ位置を変更することが可能となり、狭い空間に有効に対応することができる。

20

【 0 0 2 1 】

以上本発明を好ましい実施の形態について説明したが、本発明は特許請求の範囲を逸脱することなく多様に変形できることは云うまでもない。例えば、箱体 1 と蓋体 2 の平面形状を長方形としたが、蓋体 2 の向きを変えて箱体 1 に被せ得るのであれば、その他の形状としても支障はない。

【 0 0 2 4 】

30

【発明の効果】

以上説明したように本発明に係る物品収納箱は、箱体の側壁の支持部には高さ位置の異なる 2 つの段部を設け、箱体に蓋体を被せた際に、蓋体の複数の当接部と上位段部又は下位段部とがそれぞれ当接し、箱体に蓋体を向きを変えて被せた際に、複数の当接部が下位段部又は上位段部とそれぞれ当接するようにしたので、蓋体の向きに応じて蓋体の高さ位置を変更することが可能となり、狭い空間に有効に対応することができる。また、箱体と蓋体との間のがたつきもなく、当接機構が外部から見えないこともない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の実施の形態の外観斜視図である。

【図 2】図 1 の中心線 A に沿って切断した拡大短縮断面図である。

40

【図 3】支持部の部分拡大斜視図である。

【図 4】支持部の上位段部に当接部が当接した状態の部分拡大斜視図である。

【図 5】蓋体を箱体に高い位置で被せた状態の拡大短縮断面図である。

【図 6】蓋体を箱体に低い位置で被せた状態の拡大短縮断面図である。

【図 7】支持部の下位段部に当接部が当接した状態の部分拡大斜視図である。

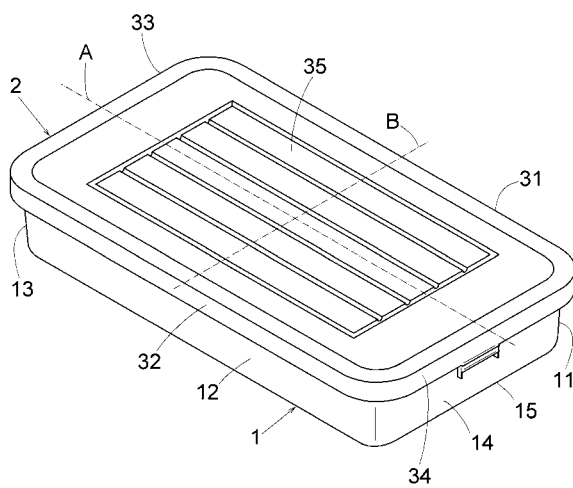
【符号の説明】

- 1 箱体
- 2 蓋体
- 1 1 ~ 1 4 側壁
- 1 5 底板

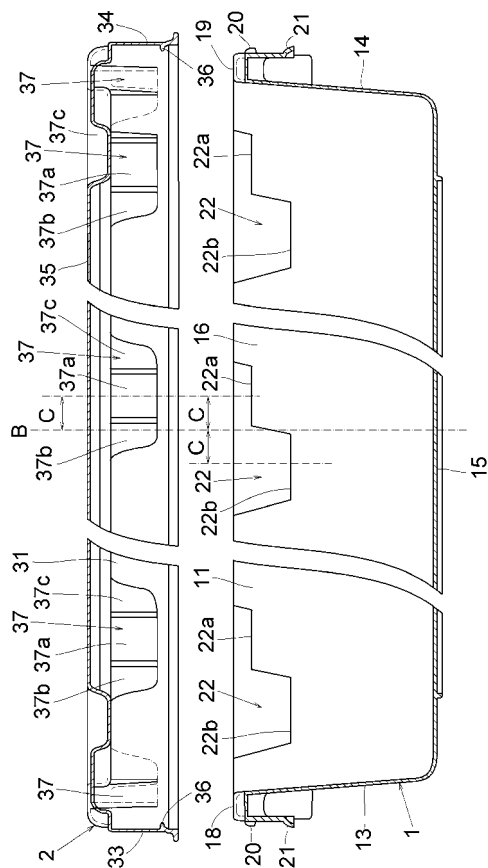
50

- 16 ~ 19 フランジ
 20、21、36 係止突起
 22 支持部
 22a 上位段部
 22b 下位段部
 31 ~ 34 外側板
 35 天板
 37 当接部
 37a 突起部
 37b、37c 面部
 A 中心線
 B 基線

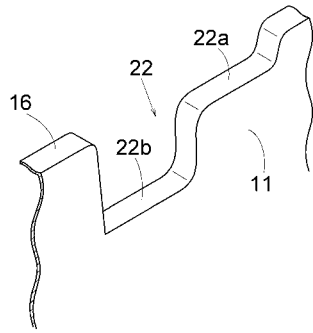
【図1】



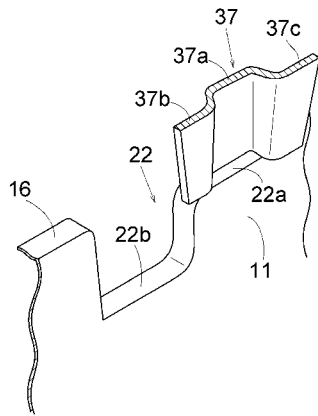
【図2】



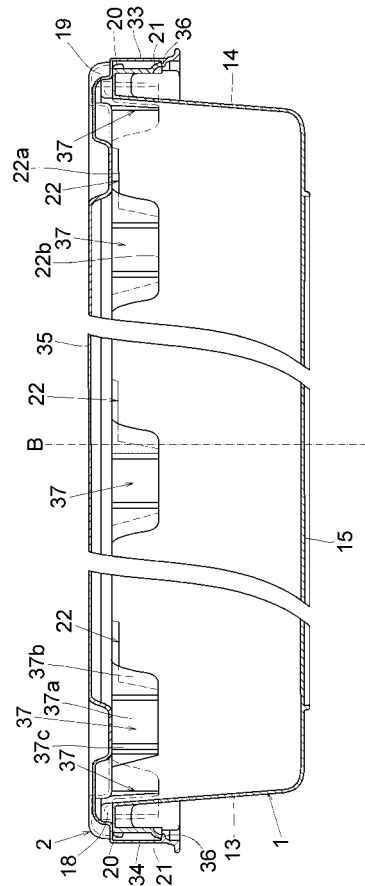
【図 3】



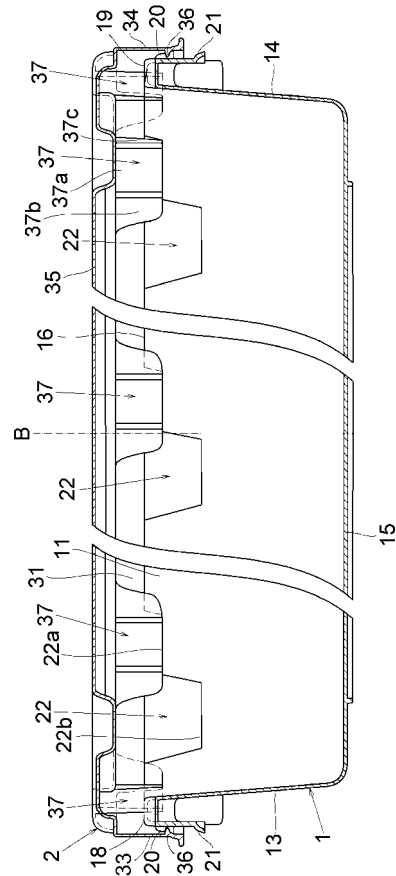
【図 4】



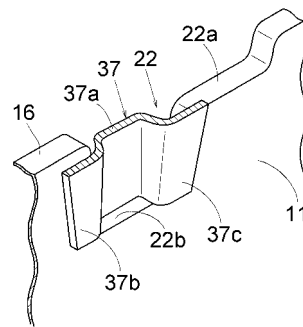
【図 6】



【図 5】



【図 7】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B65D 21/08

B65D 43/02